

# 第38回歴史探訪の会

## 西国街道と大山崎周辺の史跡を巡る

開催日：平成26年3月19日(水)

場所：京都府大山崎町・長岡京市

前日は雨、翌日も雨の予報だったが合間の好天の一日に恵まれ、19名の方々に参加頂きました。



木津川、宇治川、桂川の3つの川の合流点に丘陵地帯から天王山が張り出し、狭い平野部に位置する大山崎には古くから西国街道が整備され、水陸交通の要地でした。現在でも東海道新幹線、JR東海道線、阪急電車、名神高速道路、国道171号線が狭い平野部を縫うように並走し、高速道路の大山崎JCTがあります。

また、本能寺の変の後明智光秀と羽柴秀吉が戦った「山崎の合戦」の場所で、さまざまな史跡を見る事ができます。そんな大山崎を「大山崎ふるさとガイドの会」のボランティアガイドの皆さんに案内頂きました。

### 【コース】

大山崎歴史資料館⇒離宮八幡宮⇒関大明神⇒宝積寺(宝寺)⇒大山崎山荘庭園(昼食)⇒観音寺(山崎聖天)⇒東の黒門跡(石敢當)⇒山崎合戦地碑⇒明智光秀本陣跡⇒中山修一記念館

### 【大山崎町歴史資料館】

大山崎町の歴史を、資料や映像を使って分りやすく紹介されています。JR山崎駅前にある千利休の作とされる国宝「待庵」の原寸大復元模型や、古代から近世までをビジュアルに再現したコーナーがあり、ここでまずは大山崎町の歴史を学びます。



大山崎の歴史についてガイドさんから説明



国宝「待庵」の原寸大復元模型

## 【離宮八幡宮】

神社の名に「離宮」という言葉がつくのは嵯峨天皇の離宮跡に勧請された八幡宮であることにちなみます。祭神として応神天皇、姫三神、酒解大神をお祀りしています。

平安時代末に神人(じにん)がえごま油の量産技術を開発し、以来えごま油(えの油)の独占販売権を得て、中世には大山崎の繁栄をもたらしました。司馬遼太郎の歴史小説「国盗り物語」で一躍有名になったこの神社には現在も境内に油祖神の銅像が建ち、全国の食用油メーカーに信仰されています。

尚、離宮八幡宮近くに100余年続きかつては西国街道の旅籠であった料亭「三笑亭」があり、離宮八幡宮に奉納された御神油を使った天ぷら「離宮天麩羅」を食べることができます。



油祖神



本邦製油発祥地碑

## 【関大明神】

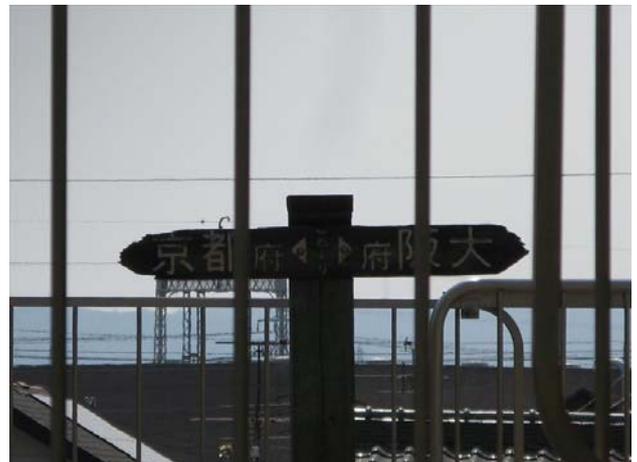
山城国(京都府)と摂津国(大阪府)の境界に位置し、そばに「従是東山城国」の石碑があります。この地は古代山崎関跡といわれ、関守や境の神(辻神)を祀った、あるいは伯耆国・大山の大智明神を祀ったのが始まりともいわれています。

菅原道真や安徳天皇・建礼門院たちの平家一門が都を去り西国へ向かう途中、ここで淀川対岸の石清水八幡宮に向かって礼拝し、京の都へ無事の帰還を祈ったと伝えられています。

因みに、JR 山崎駅のプラットホームは大阪府と京都府にまたがっており、ホーム上に京都府と大阪府の境界を示す標識が建てられています。



中央の小さな川が京都府と大阪府の境界



JR長岡京駅のホーム上の境界を示す標識

## 【宝積寺(宝寺)】

聖武天皇の勅願により、神亀元年(724年)に行基菩薩が建立したと伝えられる乙訓地方きっての古刹です。聖武天皇が夢で竜神から授けられたという「打出」と「小槌」(打出と小槌は別のもの)を祀ることから「宝寺」(たからでら)の別名があり、大黒天寶寺ともいう。本尊の十一面観音立像、閻魔王と眷属、三重の塔(羽柴秀吉が一夜で建てたと伝えられる)、仁王像などはいずれも国の重要文化財に指定されています。

宝寺の由来ともなった小槌宮には、聖武天皇が竜神から授かった打出と小槌および大黒様が祀られ、ご祈禱を行なっていて、三福(財、智恵、健康)が授かるといわれ信仰を集めています。

収蔵庫に安置されている閻魔王と眷属は鎌倉時代の作といわれ、迫力があります。ここでは地獄の沙汰、初七日から四十九日まで7日毎に法要を行う理由等閻魔王と眷属にかかわる話をガイドさんから詳しく説明頂きました。

また中世・山崎の戦いで秀吉が戦勝を祈願した寺でもあり、境内には秀吉が腰かけた「出世石」があります。



宝積寺(宝寺)



三重の塔(秀吉が一夜で建てたと伝えられる)

## 【アサヒビール大山崎山荘美術館】

大山崎山荘は大正～昭和初期に実業家・加賀正太郎氏が別荘として自らが設計した英国風山荘で、英国のウインザー城とテムズ川をイメージして建てられたとされています。

ここには山荘を前身とする美術館があり、修復された「本館」と安藤忠雄氏の設計による「新館」の2棟があります。本館には浜田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチ等民藝派作家の山本為三郎コレクションを、新館にはモネの「睡蓮」など印象派の作品を中心に展示されています。約5,500坪の庭園には四季折々の花が咲き目を楽しませてくれます。

平成になって取り壊しの危機にあい、一帯にマンションを建設する話が持ち上がったが景観が一変する事に反対する地元住民は山荘と周辺の森林の保全を訴えた。これが京都府や大山崎町を動かし、当時の京都府知事とアサヒビール社長が友人であった事、また加賀氏がアサヒビール初代社長と親交が深かったことよりアサヒビールが京都府、大山崎町と協力して山荘を保存する事となりました。

この庭園で昼食をとりましたが、昼食時間に駆け足で美術館へ絵画を見に行かれた方もいました。



大山崎山荘の入り口



大山崎山荘本館

### 【観音寺(山崎聖天)】

正式な名は妙音山観音寺といいますが、山崎の聖天さんとして親しまれているお寺です。寛平法皇(宇多天皇)が昌泰二年(899年)に開創し、江戸時代の初めごろの木食以空(もくじきいく)上人を中興の祖とする真言宗単立寺院です。本堂には聖徳太子の作といわれる十一面千手観世音菩薩が安置されています。

聖天堂には歡喜天がお祀りしており、一心に信心すれば名声を上げること、技芸の上達、地位の上達、富栄えること、夫婦和合、娯楽の満足、除病延命、福德成就怨念の退散等ご利益があらたかなお寺として信仰を集めています。本堂前には住友家寄進の大灯籠や、桂昌院(徳川幕府五代将軍綱吉の生母)寄進の梵鐘があり、この梵鐘は今でも毎日決まった時間に時を告げています。

### 【東の黒門跡】

昔の大山崎の集落は西国街道に沿ってありましたが、黒門はその集落の東と西の端にあつて、夜になると用心のため門扉を閉めていました。東黒門は五位川が西国街道と交わる場所にあり、東黒門跡には石敢当(いしがんと、せっかんとう、せきがんととの呼び方がある)があります。また、羽柴秀吉軍がここから明智光秀軍に戦闘をしかけ山崎合戦が始まった場所とも言われています。

### 【石敢当】

東の黒門跡にあり、魔よけの石で、沖縄、南九州あるいは中国南部に広く分布していると言われています。沖縄には700個ほどありますが、京都府には3つしかありません。悪鬼、邪気は曲がり角を曲がれずに石敢当にぶつかり町中へ侵入出来ないと考えられていました。



### 【久我噺分岐点】

久我噺(こがなわて)分岐点は西国街道の東黒門跡の少し北にあります。久我噺はここから北西の秋ノ山(伏見区の城南宮の近く)まで一直線につけられた道で、平安京の朱雀大路を南へ真直ぐに延長した「鳥羽作り道」に接続

されていました。平安時代に作られた道で、初期には幅が10mもありました。しかし湿地地帯に造られた道なので、雨季には大変ぬかるんだようで、その様子は太平記にも載っています。その後何度も盛り土をして乾燥を図りました。現在でも、幅4mほどに縮小されていますが、一部分が残っています。

### 【山崎の合戦跡碑】

天正十年(1582年)6月13日、羽柴秀吉軍4万と明智光秀軍1万5千が円明時川(現在は小泉川と呼ぶ)を挟んで対峙し現在の山崎橋から大山崎中学校付近で戦闘が行われました。戦いは午後4時頃から本格化し約2時間で決着がつけました。大山崎中学校脇に「山崎合戦古戦場碑」があります。



尚、この碑の付近に歴史公園を整備すべく現在工事が行われていました。

### 【明智光秀本陣跡】

山崎の合戦において明智光秀が本陣を置いたとされる場所は諸説ありますが、サントリービール工場の裏手の境野古墳の丘陵部にあったとの説が有力とされています。

### 【中山修一記念館】

わずか10年間で廃され「幻の都」と呼ばれていた長岡京の実態解明に私費を投じ調査を行った中山修一氏の遺族が生家の一部を寄贈し記念館として残されていて、長岡京の復元図や発掘の様子を見る事ができます。ここでは長岡京市のガイドさんより中山修一氏の人となり、調査活動について説明を頂きました。



中山修一記念館



長岡京のガイドさんの説明

### 【西国街道】

西国街道は京都の東寺口から大山崎、高槻など淀川の右岸を通り、大阪を経由しないで下関の赤間関(あかまがせき)に通じる江戸時代に再整備された幹線道路です。

西国街道のうち、特に6宿駅、山崎宿(大山崎町・島本町)・芥川宿(高槻市)・郡山宿(茨木市)・瀬川宿(箕面市)・昆陽宿(伊丹市)・西宮宿(西宮市)が設けられていた京都から西宮の区間を指し山崎街道(やまさきかいどう)、

山崎路(やまさき)、或いは山崎通(やまさきのみち)と言った。大坂を経由せずに西国へ抜ける街道として西国大名の参勤交代に利用され繁栄しました。なお狭義の西国街道として、この山崎通を西国街道と呼び、西宮以西のルートを山陽街道とすることもある。



現在の西国街道



現在の久我囃



集合写真(大山崎山荘庭園にて)

次回、第39回歴史探訪の会は5月21日(水曜)に開催予定です。大阪・羽曳野で「ヤマトタケルノミコト」ゆかりの古墳などを訪ねます。ご期待ください！